



関高生が英語で考え、英語で語ったセミナーについて報告します。

◇ Make Friends! Seki 2017 グローバル・アウェアネス・デイ

日 時： 平成 29 年 12 月 26 日 (火) 10:00~15:00
(事前学習会：22日(金) 15:40~16:40)

場 所： 関高校 彩雲館 2 階

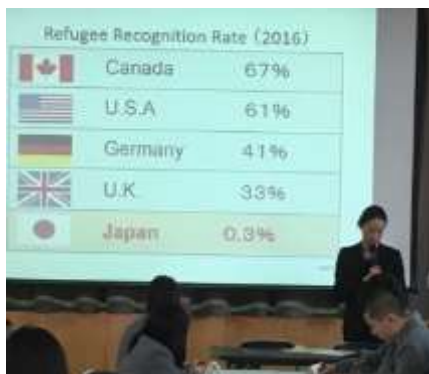
参加者： 関高校 1 年生・2 年生有志 (34 名)

講 師： 特定非営利活動法人 名古屋難民支援室 Door to Asylum Nagoya
コーディネーター 羽田野 真帆さん (可児市出身)
同法人の援助により難民認定を受けたアフリカ人女性
(人権擁護の観点から、氏名・出身国等は非公開)

日本における難民支援について、英語を用いて考えるイベントを開催しました。午前中は、講師の方 2 名による英語でのプレゼンテーションを聞きました。母国から逃れ、日本での難民認定を受けることになったアフリカ人女性の生の声を聞く機会を得ました。

昼食時間に、グループごとに英語での質問を考え、午後は講師の方に数多く質問をぶつけ、更に理解を深めました。各グループでのディスカッションを経て、「今、私たちに出来ること」について考え、参加生徒それぞれが自らの意見を英語で書き表しました。

使用される語彙やプレゼンテーションの内容そのものが難しかったものの、どの生徒も集中して話に耳を傾けていました。



👉 羽田野さんのプレゼンに驚愕。👉 集中して聴いています。



👉 積極的に質問しています。



👉 プレゼン中でも疑問は解決



👉 顔を出せないアフリカ人女性に寄り添う気持ちを示そうと、背を向けて集合写真を撮影。

生徒の感想(アフリカ人女性の氏名等は伏せてあります。)

私は事前学習で、インターネットなどで難民のことについて調べたので、難民のことはもう結構理解していると思っていましたが、今日実際に難民の***の話聞いて、自分の難民についての知識が全然足りてないと実感しました。私は、難民申請は感染症のチェックとかかなと思っていましたが、難民である根拠を示さなければいけないということを初めて知ったし、難民と認めもらうために裁判を起こしたりして、難民申請を通すのに何年もかかることを知ってとても驚きました。そしてやはり心に残ったのは質問タイムのときの「家族や友達のことをどう思っているのか？」という質問への答えです。英語を完全に理解するのは難しかったですが、***の気持ちを聞いて、言葉にはできない複雑な気持ちになりました。家族の大切さを感じました。

今日の講演で、治安の良い日本で生まれ、日本で育った私たちがいかに恵まれているかを改めて知りました。そして、そんな環境の良いところにいながら難民のことや、その他の世界の問題についてあまり知らないというのはもはや恥だと思いました。

今回学んだことも含め難民のことをもっとたくさんの人に広げていくことが難民の問題の解決にもつながっていくのではないかと思います。そして広げていくにはやはり言語の壁を乗り越える必要があります。***が言っていたように、日本人は本当に英語をすらすら喋ったり聞いたりすることができる人が全体的に少ないので、もっと英語に力を入れて、世界の人とコミュニケーションが取れるようにすべきだと私は思います。私も今日から英語を今まで以上に頑張っていきたいと思いました。(2年女子生徒)

今日の話聞いて、カナダやアメリカなどの国が半数以上の難民申請を認めているのに対し、日本ではわずか0.3%の人しか認められていないということにとっても驚きました。少しでもよりよい暮らしを求めて危険を犯してまで日本に来ている人がたくさんいるのに、なかなか認められないということがとても残念です。

難民申請が許可されづらい要因の1つが、***さんの話の中にもあったコミュニケーションを上手くとれないということなのだと思います。日本人がもっと英語を理解すれば難民の方々の話を直接聞くことができると思います。また、グローバルな視点を持つことで、難民の方々の状況を把握し対応することがより容易になると考えます。だから、英語をもっと学んで海外の方と正確なコミュニケーションを取れるようになりたいです。また、自分の身の回りの出来事だけでなく、世界中の様々な出来事に関心を持つようになりたいです。

今日の話は日本語でも難しい内容だということもありますが、断片的にしか理解出来ませんでした。それがとてももどかしくて悔しかったです。もっと多くの単語を頭に入れることはもちろん、CDを使っただけの学習などにより、もっと耳を鍛えたいと思いました。

貴重なお話を聞くことが出来て、とてもいい体験になりました。(1年女子生徒)

このセミナー以前は難民に対して特に知識もなく、英語の授業でrefugeeという単語に触れた程度のものでした。今回のセミナーにおいて日本にいる数少ない難民の方に生の声でどうして難民になったか等、自分が予想もしない事柄を、自身の身の危険を冒してまでも話してくださいました。羽田野さんのプレゼンテーションや市原先生の司会進行も含めAll Englishでしたので、概要を掴むのにも一苦労でしたが、それでも多くの情報や知識を得ることができました。僕はこのセミナーで難民について知り、関心が高まりましたが、それらを話し合うには沢山の人がそれについて知っているところが絶対条件となりますので、まずは難民についてできるだけ深く、多くの人に知ってもらうことが大切だとおもいました。まずは自分から他の人に話し、それからはねずみ算的に皆が事実を知られたら良いと思います。(2年男子生徒)